

赤川の中流部河道掘削は自然環境に配慮して進めています。

酒田河川国道事務所では、平成12年度から赤川中流部河道掘削事業を実施中であり、工事箇所には鳥類の集団営巣地が無いことを確認しながら進めています。

- ① 酒田河川国道事務所では、平成5年から5年毎に「河川水辺の国勢調査（※1）」で鳥類の集団分布地の調査を実施しております。
- ② 赤川では中流部河道掘削を、大山川合流点付近から内川合流点付近の間で計画し、平成12年度から黒森地区に着手し、現在も順次上流に向けて掘削を実施中ですが、サギをはじめとした鳥類の集団分布地がないことを確認しながら工事を行っております。
- ③ 内川合流点～羽黒橋の間では、河川水辺の国勢調査で平成5、10、15年度にJR鉄道橋上流付近でサギの集団営巣地、また平成15年度に内川と赤川に挟まれた水田でサギの集団休息地が確認されていますが、当該箇所では工事を行っておりません。
なお、平成20～21年度に実施した調査ではサギの集団分布地は確認されておりません。
- ④ 羽黒橋から名川橋の間では、平成17年度より河道内に繁茂した外来種「ハリエンジュ」の駆除を行っていますが、堤防沿いにある在来種のオニグルミ、ヤナギ等の河畔林等は残すこととしております。
- ⑤ 貴重種のトラフズク（フクロウ科）の営巣情報がある樹林は伐採対象から除外しております。

以上のように、鳥類をはじめ生態系に留意して工事を進めていることをお知らせします。

※1 河川水辺の国勢調査とは
河川を生物環境という観点からとらえ、定期的、継続的、統一的に基礎情報を収集整備するための調査で、調査項目は、魚介類、植物、鳥類等の6項目となっております。
赤川における鳥類調査は平成5年度、平成10年度、平成15年度、平成20～21年度に実施しています。

〈発表記者会〉鶴岡記者会、酒田記者クラブ

お問い合わせ先

国土交通省 酒田河川国道事務所

住 所:酒田市上安町1-2-1

電話番号:0234(27)3331

河川副所長 齋藤 信哉(さいとう しんや) (内線 204)

工務第一課長 佐藤 信男(さとう のぶお) (内線 311)

NO. 45

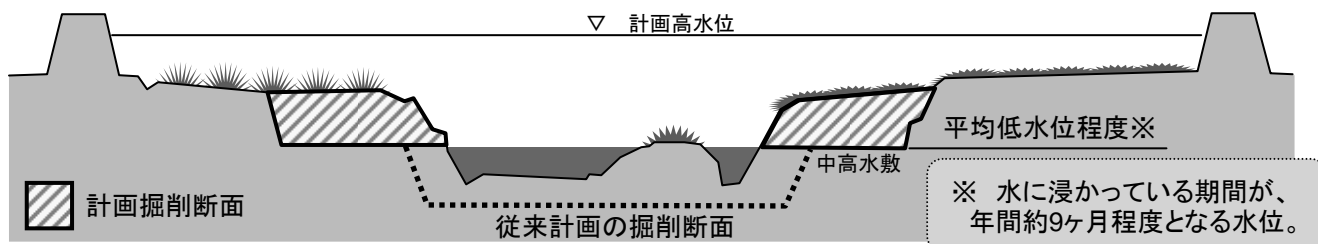
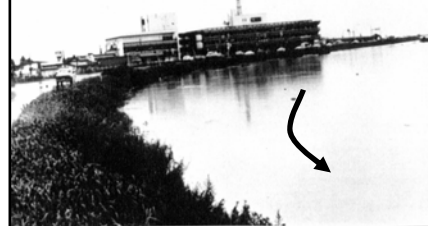
赤川中流部河道掘削工事について

●洪水を安全に流します。

赤川中流部(大山川合流点から内川合流点までの約11kmの区間)は、低水路(普段水が流れる場所)の幅が40m程度であり、上下流部に比べ半分以下の幅となっているため洪水が流れにくい形状となっています。

そのため、洪水でも安全に流せるよう河道掘削工事を実施しています。

S62年8月洪水
庄内総合支庁付近



●自然環境面にも配慮しています。

河道掘削の実施に際しては、洪水時の安全性の向上だけではなく、地面の高さを低くすることによって水に浸かる頻度を高め、湿地を再生することにより多くの生き物が住むことができる自然環境を創出します。

～黒森地区の例～

平成12, 14年度に掘削を実施した黒森地区では、湿地が再生され、良好な自然環境となっています。



掘削範囲内では、水辺に特徴的な植物であるヨシ原を繁殖に利用する、特定種であるコヨシキリ、オオヨシキリが多数確認されています。また従前の調査で確認されていなかった、湿性植物の特定種のタコノアシ等が掘削範囲内で確認されています。



●タコノアシ

湖沼や放棄水田などの湿地に生息する多年草(環境省RDB 準絶滅危惧Ⅱ類(VU)、山形県RDB 絶滅危惧ⅠB類(EN)に該当)



●コヨシキリ

体長約13cmの夏鳥。ヨシ原で見られ、乾いた草原にも多い。(RDBやまがた 準絶滅危惧(NT)に特定)

赤川中流部河道掘削工事及びサギの集団分布位置

